

演習Ⅱ

科目ナンバリング SEM-302

必修 2単位

今野 久子

1. 授業の概要(ねらい)

人口増加が期待できない時代を迎え、大学では、「智」や「技術」のみならず学生の活動をまちづくり分野に活かす試みが多く見られるようになっていく。一方、本学八王子キャンパスが立地する多摩ニュータウンは、日本を代表する大規模開発として、超高齢化やコミュニティ再生など現在の地域課題への対応においても先進地域であり、ここで今、様々な場面に若者の力を活かすことへの期待がこれ迄以上に高まっている。この両者の係りから生まれるのは、「学生は、実社会で多くの大人に接し、他では体験できない多様な学びを得る」―「地域の各主体は、コミュニティ再生の方法を模索し蓄積する」という、いわゆるウィン・ウィンの相互関係である。

本演習は、本学が掲げる「実学」を「PBL(problem based learning)」の形で試みる立場から、学生目線での地域経営(エリアマネジメント論)を講究し、将来のまちづくりや地域貢献・NPO(的)活動に資する経験・スキルアップにも繋げることを目指して開講する。キャンパス周辺のニュータウン地域のなかで具体的な現場と係る実践的・試行的な取組みについて、これまでに構築してきた地域との関係を一層深めつつ、現場の課題・状況に即して段階的に取組み展開を図る。今後の地域づくりが着実に市民協働に向かっていくことからグループワークを行う。自治会、事業者、行政など現場の関係者との協議・調整を尊重し、学生目線で主体的なフィールド活動を計画立案し、実践する。なお、受講者の関心領域に応じて関係者をゲストとして招聘し、或いは視察研修の実施や視察先での関係者の話を聞く機会をつくる。

2. 授業の到達目標

- (1) 地域経営(エリアマネジメント論)について基本的な知識をもち、ニュータウン地域・対象とする現場の喫緊の具体的な課題を説明することができる。
- (2) 興味・関心のある領域において、自主的に研究テーマ設定や研究方法を考えて、研究計画を立てることができる。
- (3) 現地調査やヒアリング調査等を通じて地域・現場に受け入れてもらうための作法を身につけることができる。
- (4) グループによる協働・協調での活動を通じて学んだことを一年間の成果報告として取りまとめることができる。

3. 成績評価の方法および基準

演習系科目のため出席は必須である。評価は、グループワークへの参加・主体的な貢献が50%、研究・活動の推進とその経過報告が25%、研究・活動の成果とその取りまとめ報告が25%の配分によって総合的に評価する。

4. 教科書・参考文献

教科書

以下の資料・参考書を適宜用いるほか、授業のなかで適宜紹介する。

参考文献

小林英嗣他 (2008)『地域と大学の共創まちづくり』 学芸出版社

上野淳・松本真澄 (2012)『多摩ニュータウン物語 オールドタウンと呼ばせない』 鹿島出版会

多摩ニュータウン学会編集委員会 『季刊 多摩ニュータウン研究(各号)』 中央大学出版部

秋元孝夫 (2005)『ニュータウンの未来』 多摩ニュータウン・まちづくり専門家会議(pdf版無償配布)

UR都市再生機構 多摩ニュータウンホームページ

<http://www.ur-net.go.jp/syutoken/nt/outline.html>

国土交通省 エリアマネジメントに関するホームページ掲載資料(エリアマネジメント推進マニュアル等)

5. 準備学修の内容

授業時間内の実践的活動と併せて、実践的活動のベースとなる基礎知識の習得に向けた準備学修に取り組むこと。具体的には、多摩ニュータウンの課題、学生の地域活動の先進事例、現代社会における住宅地区の一般的課題(例:コミュニティ再生、防災・安心安全、地域資源活用、空き家問題等)などのうち関心あるテーマを取上げ、資料調査やヒアリング調査等による基礎的研究を行い、実践的活動の参考になる知見として取りまとめること。

6. その他履修上の注意事項

活動はすべてグループ単位で行い、協力して検討・実践する基本姿勢を徹底してほしい。基礎知識の習得、現場の課題の把握や実践的活動の検討に際しては「物の見方や捉え方」「実現に至る過程や背景」の重要性に気づき、マニュアル思考から脱皮して、就職の際の差異・個性、卒業後必須の知識・思考を身につけてほしい。一連の活動・研究を通じて論理性・協調性・コミュニケーション力・プレゼン力や各種PCソフトの技能等も身につくことに期待している。

7. 授業内容

- | | |
|--------|---|
| 【第1回】 | 9/18 夏季休暇中の成果と秋学期のイントロダクション
グループでの地域貢献活動の実施プログラム検討①
※キャンパス周辺の現場を対象に、地域課題の解決に向けた実践的活動について、関係者(自治会、事業者・生産者、行政等)との協議調整を行いながら、実施プログラム検討を行う
※タイムスケジュール、役割分担、配置計画、運搬計画、備品、参加募集、等 |
| 【第2回】 | 9/25 グループでの地域貢献活動の実施プログラム検討② |
| 【第3回】 | 10/2 グループでの地域貢献活動の実施プログラム検討③ |
| 【第4回】 | 10/9 グループでの地域貢献活動の実施プログラム検討④ |
| 【第5回】 | 10/16 グループでの地域貢献活動の実践準備①
※キャンパス周辺の現場を対象に、地域課題の解決に向けた実践的活動の実施準備を行う
(準備品の調達、リハーサル 等) |
| 【第6回】 | 10/23 グループでの地域貢献活動の実践準備② |
| 【第7回】 | 10/30 グループでの地域貢献活動の実践準備③ |
| 【第8回】 | 11/6 グループでの地域貢献活動の実践準備④ |
| 【第9回】 | 11/13 グループでの地域貢献活動の実践準備⑤
※リハーサル 11/6 |
| 【第10回】 | 11/20 グループでの地域貢献活動の実践準備⑥
※実施 11/23 |

- 【第11回】 11/27 グループでの地域貢献活動の成果報告取りまとめ①
※キャンパス周辺の現場を対象に、地域課題の解決に向けた実践的活動の成果として、
取組の主旨・活動内容と方法・効果と今後の課題などの視点から取りまとめる。②
- 【第12回】 12/11 グループでの地域貢献活動の成果報告取りまとめ②
- 【第13回】 12/4 キャリアガイダンス(日程変更の可能性もあり)
- 【第14回】 12/18 グループでの地域貢献活動の成果発表、一年間の総括と今後の展望
※キャンパス周辺の現場について地域課題の解決に向けた実践的活動の成果を発表する。
- 【第15回】 1/8 グループでの地域貢献活動の成果発表(次年度ゼミ生との顔合せ・引継ぎ)
※キャンパス周辺の現場を対象に、地域課題の解決に向けた実践的活動の成果を発表する。
※一年間の総括と次年度以降への展望について、次年度の演習参加者への引継ぎを行う。
以上はあくまでも想定であり、現場の状況等を見極め柔軟に対応しつつ、段階的に取組みを進める。